



共同声明



Xiao Jianhua (IAF議長), Merih Malmqvist Nilsson (ILAC議長)

世界認定推進の日 2017 (#WAD2017)



Xiao Jianhua

Accreditation: Delivering Confidence in construction and the built environment

まち
(日本のテーマは「認定で支える都市づくり」)



Merih Malmqvist Nilsson

2017年世界認定推進の日では、「認定」がいかに建設と構築環境を支え、信頼をもたらしているかに焦点を当てました。規格、適合性評価、そして認定は、建設産業、ビル所有者、請負業者から製造業者、設計者、建築家そして構造技術者、土木技師に至るまでをサポートするツールとして受け入れられ、その地位を確立しています。更に政策立案者、地方自治体、規制当局が、建設分野の規制、環境保護、公共の安全、不正防止、公衆の信頼とイノベーションをサポートすることにも利用されています。

建築分野は、経済発展、雇用創出、そして環境にとって重要です。発展途上の国々では、既存の商業用国内資産と同様に、道路や橋、交通網などのインフラ計画は気候や自然災害に左右されるリスクが高い傾向にあります。中進国では建築は複雑で競争の激しい分野となっています。企業は利幅の改善やコストの削減を追求し、一方で建築品質を向上させ、建築現場での安全な環境を確保し、より持続可能性の高い建物を提供していくという課題に取り組んでいます。デジタル革命は、建築構成要素のコンピュータ化された結合技術を組み込んだ、構造デザインのためのBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）という形で、建設分野にも広がっています。

建設業界のサプライチェーンは都市化の速度、製造業における科学技術の進歩、建築手法、環境圧力、デザイン嗜好の変化そして常にグローバル化しているサプライチェーンの影響を受けています。

これらの要因を考慮すると、市民が安全、安心、そして建築プロジェクトや構築環境の持続可能性へ信頼を持つということが重大な意味を持っています。認定は、リスク管理をサポートし、効率を向上することを助け、国及び地方の規制への適合を実証するシステムを提供することにより、このような信頼をもたらします。認定された試験、校正、検査、及びその認定書は、建築の供給者、購入者、その仕様書作成者に、建築プロジェクトが効率よく進んでおり、工事現場が安全で信頼できる材料を使っているという保証を与えます。それらはまた政府や規制当局にも、完成したプロジェクトが法律に順守しており、既存の建物も安全に使い続けることができるという確かな証拠にもなります。



また、認定は建築サプライチェーンに関わる多くの規制を網羅しています。試験所は建設材料や原材料、ジオテキスタイル、土木資材、機械と構造物、音響特性そして空気漏れ試験をテストするための認定を受けています。校正機関は、音響、長さ、質量、密度、体積、力、トルク、硬さ、電気、圧力、液体流量、温度、湿度の校正を専門としています。

品質、環境、労働安全衛生そしてエネルギー分野の認定されたマネジメントシステム認証は、建設会社がプロジェクトを効率よく運用し、環境への影響とエネルギー効率を管理し、安全な労働環境を提供するための適切な管理方法とプロセスを持っていることを保証します。

検査機関は、溶接と溶接手順、圧力容器、配管とガス、電気安全、昇降機、危険物配送のような、建設関連の活動を検査します。また、認定はアスベスト検査やレジオネラ菌のリスクアセスメントのような検査業務もカバーします。

認定が建設および構築環境に対する信頼をどのようにして提供するかについて、より詳しく記載したパンフレットをIAFおよびILACのウェブサイトからダウンロードできます。

建設分野での、認定が果たす役割の価値についての認識を高めるため、100ヶ国以上で世界認定推進の日のお祝いに併せて、重要なイベント、新聞、テレビ報道、ワークショップ、セミナーが開催されます。

その他の事例紹介資料、調査報告資料、補足資料は下記URLから入手することができます。

www.publicsectorassurance.org